# 病気になったとき（介護について）

## 【私が認知症や寝たきりになったときの生活の場所】

□自宅　　　　　　　　　　　　　　□病状にあった病院や施設

□病状に関わらず病院や施設　　　　□その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

## 【私が認知症や寝たきりになったときの介護をお願いしたい人】

　　　□家族にしてほしい（名前：　　　　　　　　　　　　　　　）

　　　□介護保険などのサービスを利用して家族にしてほしい

□介護保険などのサービスを利用したい　　　　□その他（　　　　　　　　　　　）

## 【私が認知症や寝たきりで介護が必要になったときの介護費用】

　　　□私の預貯金や年金・保険でまかなってほしい

　　　□上記で不足するときは家族の援助でまかなってほしい

　　　□家族の判断に任せる

　　　□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

## 【私が認知症や寝たきりになったときの財産管理】

　　　□家族にしてほしい　　　　　　　　□後見人や任意後見人にしてほしい

　　　□社会福祉協議会のサービスを利用したい　　　□その他（下記の方）

|  |
| --- |
| お願いする人・団体の名前： |
| 連絡先： |

財産管理について

財産管理を任せると相続のときにもめごとが起こるケースがよくあります。家族の無用な争いを防ぐ方法として、専門家の後見人に管理を任せることも考えてみましょう。

寝たきりや認知症になる前に、予め自分の財産管理や医療・介護契約の手助けをしてくれる後見人（任意後見人）を選んでおき契約を結んでおくこともできます。

病名告知・治療の希望

命に関わる病気にかかってしまったとき、家族は迷いや葛藤の中で重い決断を下さなければならないでしょう。残された家族が悩まなくてもいいように、意思表示しておきましょう。

痛みや苦痛について

強い鎮痛剤(麻薬系鎮痛剤等)を使用することで痛みをやわらげることができます。しかし、副作用として意識がぼんやりしたり、呼吸抑制(呼吸がしづらくなる)が見られることがあります。

急変時の救急搬送について

急変時に救急搬送を要請した場合、基本的には蘇生処置(心臓マッサージ等)が救急隊によって行われます。救急要請を行わず自然な最期を迎えることを希望される場合は、自宅で看取ってくれるかかりつけ医が必要になります。

心臓マッサージなどの心肺蘇生について

心肺蘇生とは、死が迫った状態で心臓マッサージ、気管内挿管、人工呼吸器の装着、昇圧剤(血圧を上げる薬)の投与などを行うことです。気管内挿管を行った後、医療スタッフが手動でバッグから酸素を送り込みます。その後自身の呼吸(自発呼吸)が戻らなければ、人工呼吸器につなぐことになります。

延命のための人工呼吸器の装着とは

病状によって、人工呼吸器を装着してから亡くなるまでの期間は異なります(数時間～年単位)。現在の法律では、いったん人工呼吸器を装着すると、病状が好転し自発呼吸ができるようになるか亡くなられるまで機械を外すことはできません。

鼻チューブや胃ろうによる栄養補給とは

鼻チューブとは、栄養剤を送るため鼻から胃まで通す細い管です。胃ろうと同じく、定期的な交換が必要ですが、胃ろうよりも簡単な処置です。胃ろうと比較すると患者さん自身が自分で管を抜く危険性が高いという欠点があります。

胃ろうとは、内視鏡(胃カメラ)を使いながらおなかの表面に小さな穴をあけ、そこに栄養補給のための管をつなぐ器具を設置したものです。使用しないときは管を外してふたをします。定期的な交換が必要になります。